

国立国会図書館



ワールドデジタルライブラリー

日本の近代政治史料を探る 憲政資料の収集「松下芳男関係文書」を例に

図解 国立国会図書館のしごと カウンターの裏側

2009.7
No. 580

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
03(3506)3301(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。</small>	後日複写受付	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
資料請求時間	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00	オンライン複写受付	月～金曜日 10:00～17:30 土曜日 10:00～15:30
	<small>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。</small>		

■見学のお申込み／国立国会図書館 資料提供部 利用者サービス企画課 03(3581)2331 内線26111

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
利用案内 0774(98)1212(FAXサービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求時間	月～土曜日 10:00～17:15	後日複写受付	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	オンライン複写受付	月～土曜日 10:00～17:00

■見学のお申込み／国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声・FAXサービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	<small>※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。</small>	
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求時間 火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

02 蝶蛾鱗粉転写標本

100年前の翅のきらめき

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 ワールドデジタルライブラリー 文化遺産を一望する

10 図解 国立国会図書館のしごと

カウンターの裏側 申し込んだ資料はどのように出てくるの？

13 日本の近代政治史料を探る 憲政資料の収集 「松下芳男関係文書」を例に

20 国立国会図書館の書庫 第2回 関西館・国際子ども図書館

22 医療情報、技術情報の調べ方

図書館で学ぶ 第3回

12 館内スコープ

「若しくは」→「ジャクシクハ」？

18 本屋にない本

○『海辺の小屋 新潟の舟小屋・浜小屋・番屋』

○『旅 江戸の旅から鉄道旅行へ 企画展示』

27 NDL NEWS

○宮本沙海氏から墨画寄贈

28 お知らせ

○PORTA をリニューアルしました

○ISSN 登録した国内オンラインジャーナルのリストを掲載しました

○国際子ども図書館展示会「世界をつなぐ子どもの本—2008年度国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展」

○「子ども霞が関見学デー」に参加します

○関西館小展示第2回「日食を追うひとびと—7月22日皆既日食にちなんで」

○国立国会図書館データベースフォーラム（関西館）

○明治時代の本の著作権者を探しています

○平成21年度「児童文学連続講座—国際子ども図書館所蔵資料を使って」

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

蝶蛾鱗粉転写標本 100年前の^{はね}翅のきらめき

石田 暁子

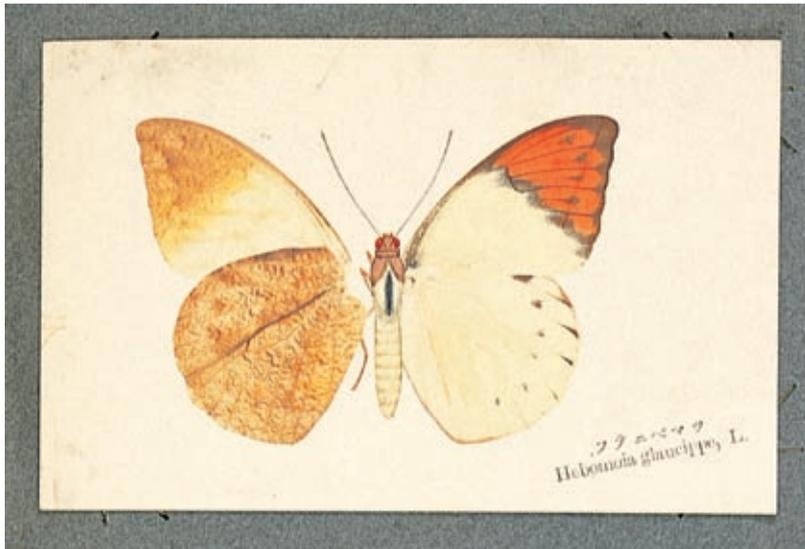


図1 『蝶蛾鱗粉転写標本』第70号から、ツマベニチョウ。
右側が翅の表側、左側が翅の裏側の鱗粉転写。胴体部分は手描き。



図2 『蝶蛾鱗粉転写標本』第69号から、ギフチョウ。

上の写真は、昆虫画ではありません。昆虫標本です。標本といっても、昆虫をそのまま乾燥させた、立体的な標本ではありません。蝶や蛾の^{はね}翅についている鱗粉を紙に移し取った、鱗粉転写標本とよばれるものです。

鱗粉転写の方法は、いまでも各地の自然教室などで指導されています。現在行われている手順は、糊を薄く塗った紙に、蝶や蛾の身体から切り取った翅を挟むというものです。乾燥してから紙を開くと、翅の模様が紙に移り、裏表2枚の標本ができあがります。これを適切な位置に配置し、胴体や触角を描き加えれば完成です。

ギフチョウの命名者として知られる昆虫学者・名和靖（安政4(1857)–大正15(1926)）を所長とする名和昆虫研究所が鱗粉転写の技法を開発したのは、明治40年代初頭のことです。名和研究所では鱗粉転写を、標本の作製技法というよりも、美術工芸品の作成技法ととらえていました。研究所の機関誌

『昆虫世界』の明治41年11月号で、名和靖は鱗粉転写法の発明趣意を「本邦美術界に多少の貢献を」するためであると述べています。実際に明治42(1909)年、若冲模様の半襟に鱗粉転写の技法を使ったものが三越呉服店で売り出されたという記録がありますし、名和研究所工芸部でもまた、クッションなどに鱗粉転写で模様をつけたものを作り、販売していました。一方、名和靖・木村定次郎共著の『新式昆虫標本製法』（明治42年）や、名和昆虫研究所が作成した『最新昆虫標本製作全書』（大正14年）には、鱗粉転写に関する記述はありません。胴体部分が残らない鱗粉転写は、正式な標本としては、やや不完全だと考えられていたのかもしれませんが。

とはいえ名和研究所は、鱗粉転写標本に標本としての意義をまったく見出していなかったわけではありません。鱗粉転写法の完成と同じ頃、名和研究所の所員の一人が、石垣島産コノハチョウの研究をしていましたが、名和研究所



図3 名和靖肖像（『名和靖氏還暦記念寄贈論文集』長野菊次郎編 名和昆虫研究所 大正6年）＜請求記号 365-54＞ 農害虫・白蟻の駆除方法の研究および一般大衆への普及に尽力し、「昆虫翁」「白蟻翁」と呼ばれた。



図4 名和昆虫研究所（『岐阜県写真帖』岐阜県明治42年）＜請求記号 22-502＞

ではこのコノハチョウを鱗粉転写標本とし、虫害や破損に強い画期的標本として、学校などへの頒布を行いました。

こうした流れの中で、『蝶蛾鱗粉転写標本』は、昆虫研究者と美術工芸家の双方に向けて発売されました。『昆虫世界』に掲載された広告によれば、その値段は、標本100種を収めたものが1冊25円。当時の米の価格が10kgあたり1円38銭ですから、相当に高価なものです。本書の前書きには、標本にふさわしい完全な形の蝶蛾を採集することが困難なこと、標本の作製には相当の技術を要することが述べられています。この標本帖には各冊ごとに固有の番号が振られ、研究所の印が押されていますが、これも「本書ヲ以テ在来一般ノ杜撰ナル印刷物標本類ト同一視セラレ、コトナク」という自信の表れなのでしょう。

『蝶蛾鱗粉転写標本』は岐阜県図書館にも所蔵があり（明治41年作成の第27号）、同館のデジタルコレクションで

画像が公開されていますが、収録されている標本の数や種類は、当館所蔵のものとやや異なるようです。

当時の技術の粋を集めて作成された標本は、100年経った今もなお、細かな翅の模様や鱗粉の光沢までを残し、その美しさを保っています。

『蝶蛾鱗粉転写標本 第69、70号』名和昆虫研究所工芸部
明治42年 <請求記号 39-112>

※この資料および図3・4の資料はマイクロフィッシュでの閲覧となります。

より詳しく知るために

●『蝶蛾鱗粉転写標本』（岐阜県図書館 デジタルコレクション）
<http://www.library.pref.gifu.jp/digitallib/butterflies/butterflies1.htm>

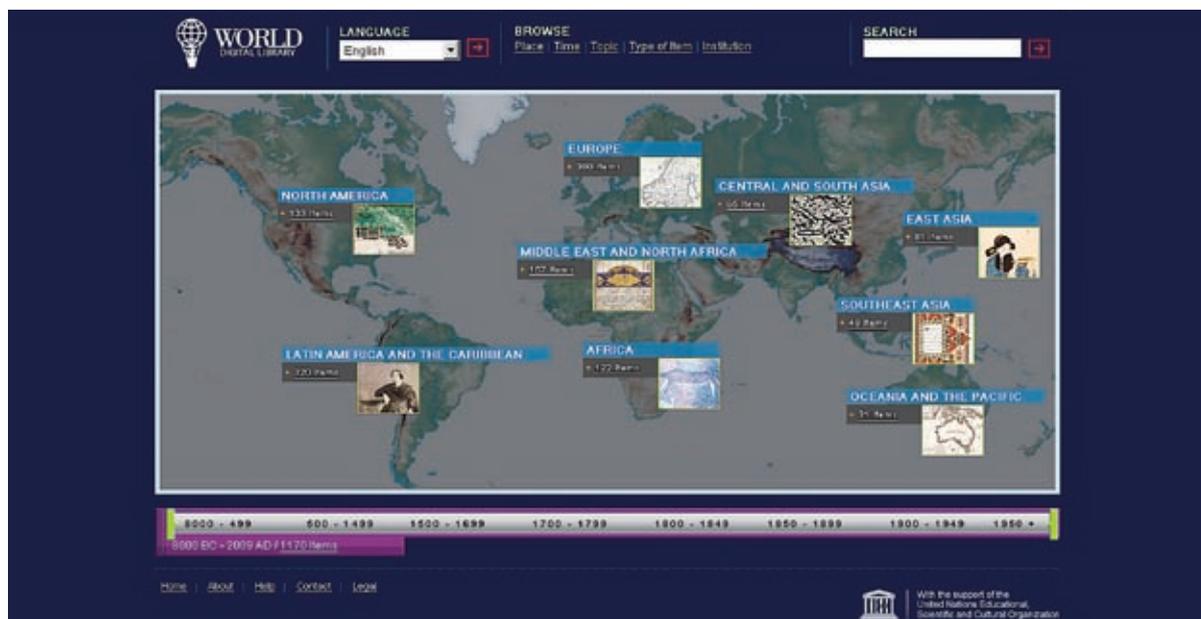
●『昆虫翁・名和靖』木村小舟著 昭和19年 童話春秋社
<請求記号 GK95-E2>

参考資料

●『和装小物の史実』高島与市郎著 昭和39年 和装小物の史実出版委員会

●『昆虫世界』名和昆虫研究所 第12-13巻 明治41-42年

ワールドデジタルライブラリー



ワールドデジタルライブラリー <http://www.wdl.org/>

4月21日、ワールドデジタルライブラリー（World Digital Library）が開設されました。米国議会図書館と国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が共同で推進するこのプロジェクトは、世界各国の図書館等が提供するデジタルコンテンツによって、各国の文化の特色を示す資料を地域、時系列、テーマ別に一望できるウェブサイトの構築を目指すものです。ここでは、プロジェクトの概要と当館のかかわり、事業開始にあたって開催された参加機関会議の様態などをご紹介します。

1 ワールドデジタルライブラリーの概要

(1) 事業の経緯と目的

ワールドデジタルライブラリー（以下、WDL）は、2005年6月にビルントン（James H. Billington）米国議会図書館長が米国ユネスコ国内委員会総会で提案したことに始まります。その後、ユネスコでの準備会議を経て共同した取組みが進められ、2007年10月にユネスコと米国議会図書館との間でWDLの共同設立に向けた覚書が取り交わされました。参加機関は世界22か国・地域34機関で、当館は、2008年12月に事業参加契約を締結しました。

WDL 設立にいたる経緯

- 2005年6月
ユネスコ米国国内委員会総会において米国議会図書館長がWDLの創設を提案
- 2005年11月
Googleが民間企業としては初となるWDLへの寄付（300万米ドル）を表明
- 2006年11月
米国議会図書館の協力のもと、エジプト国立図書館・文書館が所蔵資料のデジタル化センターを設立
- 2006年12月
ユネスコ・パリ本部においてWDL創設に向けた会議を開催
- 2007年10月
ユネスコと米国議会図書館との間でWDL創設の覚書を締結。あわせてWDLウェブサイトのプロトタイプ公開
- 2009年4月
参加機関会合の開催、WDLサイトの公開

文化遺産を一覧する

WDLの目的は、国際および異文化間の相互理解の促進、教育関係者への情報資源の提供にあります。特に、発展途上国における情報資源デジタル化の促進、インターネット上での非英語、非西洋世界の情報資源の拡大に力点が置かれている点の特徴です。

(2) 公開サービス

WDLは、世界中の重要な文化遺産をインターネット公開するもので、図書や新聞・雑誌といった出版物だけでなく、手稿、地図、貴重書、動画、写真、音楽資料といった広範な資料を対象としています。各資料には解説が付され、英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語およびアラビア語の7か国語で利用することができます。

4月から公開されているサービスは、世界地図と年代が組み合わされた斬新なユーザインターフェイスを採用しており、地域、年代、トピック(哲学、歴史、宗教、技術、芸術等)、提供機関(2009年6月現在26機関)といった項目でコンテンツを一覧することができます(6ページ図参照)。

当館からは、これまで「開館60周年記念貴重書展」、「史料に見る日本の近代」といった電子展示会等で提供してきた貴重書等のコンテンツの中から、「ひやくまんとうだらに百万塔陀羅尼」など15件を選定し、提供しています(8～9ページ参照)。ちなみに

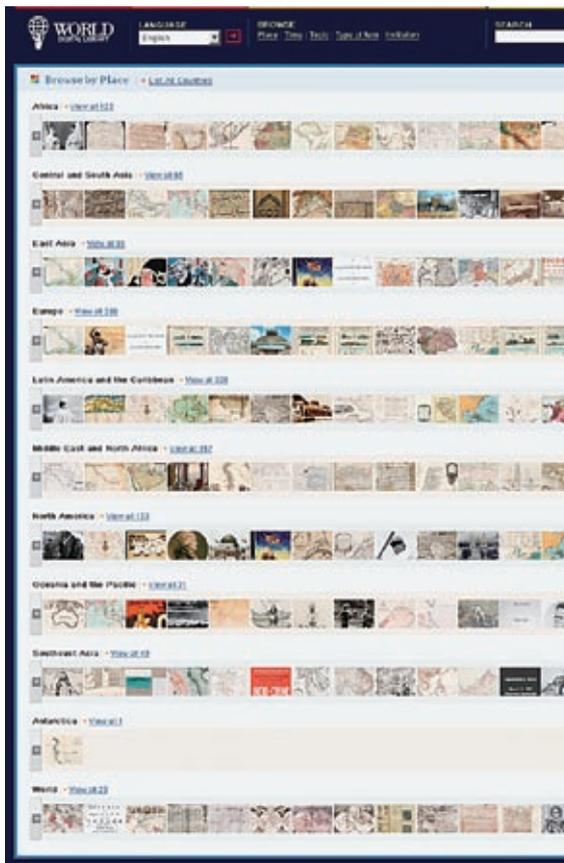
WDLの地域(Place)区分で、「日本」のコンテンツを検索すると全部で33件がヒットします。当館の15件に加えて、米国議会図書館や米国のブラウン大学図書館が提供した浮世絵や地図が含まれています。国境や所蔵機関の壁を越えて、海外の機関が所蔵する日本の文化遺産もあわせて一覧できることは、WDLの可能性を示すものといえます。

ワールドデジタルライブラリー参加機関 (英語表記のアルファベット順) (2009年6月現在)

アレクサンドリア図書館(エジプト・アラブ共和国)
ブラウン大学図書館(米国)
メキシコ歴史研究センター
カタール財団中央図書館
クリストファー・コロンプス図書館(米国)
国際図書館連盟(IFLA)
イラク国立図書館・文書館
ジョン・カーター・ブラウン図書館(米国)
アブドラ国王科学技術大学(サウジアラビア王国)
米国議会図書館
マンマ・ハイダラ記念図書館(マリ共和国)
米国国立公文書館
国家図書館(台湾)
国立国会図書館(日本)
エジプト国立図書館・文書館
メキシコ国立人類学歴史研究所
ブラジル国立図書館
中国国家図書館
フランス国立図書館
イスラエル国立図書館
ロシア国立図書館(サンクトペテルブルグ)
セルビア国立図書館
スウェーデン国立図書館
ウガンダ国立図書館
オランダ王立言語地理民族学研究所
ロシア国立図書館(モスクワ)
聖マルココプト教会図書館(エジプト・アラブ共和国)
テトゥアン・アスミル協会(モロッコ王国)
国際連合教育科学文化機関(UNESCO)
ブラチスラバ大学図書館(スロバキア共和国)
プレトリア大学図書館(南アフリカ共和国)
ウェルカム図書館(英国)
イエール大学図書館(米国)
エリツィン大統領図書館(ロシア連邦)

2 参加機関会議と今後の課題

WDLの公開に先立ち、4月20日、パリの米国大使館公邸で、WDLの今後の方向を議論するための参加機関会議が開催されました。会議は、ユネスコ事務局のほか、日本等34の参加機関代表が集い、日本からは長尾真国立国会図書館長が出席しました。



世界各国をアフリカ、東アジア、北アメリカなど11の地域に分類し、その地域の関連した資料を見ることができる。このほか、資料の形態、年代、所蔵機関別の画面もある。

会議では、ピリントン米国議会図書館長、カーン (Abudul Waheed Kahn) ユネスコ事務次長等が、WDLプロジェクトの目的と意義をあらためて紹介し、その後、国際図書館連盟 (IFLA) のルクス (Claudia Lux) 会長の議事進行により、課題についての討議が行われました。

おもな討議内容と今後の方向性について、簡単にご紹介します。

(1) コンテンツの拡充について

WDLの発展にとって、今後のコンテンツ拡充がきわめて重要ですが、コンテンツの選択について、各機関の所蔵する国宝級 (national treasure) のものに絞るのか、範囲をもっと広げるのか、図書館資料を中心とするのか、美術館や文書館の資料まで考えるのか、子どもたちの教育のためといった目的も加えるのかどうかといった議論が交わされました。

コンテンツの選択については、今年1月にエジプトで実務者によるワーキンググループが開催され、選択のガイドラインをまとめていますが (8ページ参照)、ユネスコの「世界の記憶 (Memory of the World)」事業を文化遺産の登録簿として、その中で、当面は国宝級のコンテンツからWDLに載せていってはどうかという方向になりました。

(2) 言語の問題

現時点で WDL には 40 以上の言語の資料が掲載されていますが、解説は 7 か国語に限定され、現時点では日本語による利用ができません。多くの言語で利用できることが望ましいことは言うまでもありませんが、多言語対応にはコストの問題があります。

討議では、シソーラスだけでも多言語で作ってはどうかといった議論、また、各国は自国語への翻訳に責任をもつ形で進めていくこととしてはどうかという意見や、アクセスの多い資料から多言語に翻訳していくようにしてはどうかという意見も出されました。言語の問題は、発展途上国の参加者の関心も高く、この問題についてのワーキンググループを作る方向で検討することになりました。

(3) WDL の参加団体を増加していく方策

WDL の参加機関は、2010 年末までは、米国議会図書館と個別に契約を取り交わし、コンテンツを提供していますが、2011 年以後は、全参加機関が統一の WDL 憲章 (charter) に基づき事業を行うことが提案されています。この点について、長尾館長は、「日本では、多くの寺院等に国宝級の文化財があり、それぞれがデジタル化を行っているが、勝手に商業利用されることを懸念して、なかなか公開の場に出したがない。WDL に参加する時、知的財産権の保護の観点からの利用の



記者会見で発言する長尾館長 (ユネスコ本部 4 月 21 日)

制限といった問題について、明確に契約をできるようにすべきである」と発言し、ほかの参加者からも同様の対応を求める声が上がリ、WDL の憲章の検討の中で、明確化することとなりました。

また、憲章の案文のとりまとめは、多国間協定作業の経験の多いユネスコ事務局が中心となり、取りまとめを行うことが決まりました。

(4) 今後の活動について

今後の WDL の活動については、課題ごとのワーキンググループ (以下、WG) を設置し、積極的に各国各機関からの参加者を募って、具体的な検討を進めていくことが確認されました。

具体的には、これまで活動してきた、①「コンテンツ選択 WG」(2007 年 10 月、2009 年 1 月開催)、②「技術アーキテクチャ WG」(2007 年 4 月開催)、③ IFLA の中で検討を行ってきた「デジタルライブラリーのガイドライン策定 WG」(2007 年より 4 回開催)に加えて、参加機関を拡充するための WG および言語問題の WG を新たに設置する方向で、検討が進められることとなりました。

コンテンツ選定の考え方とガイドライン
(2009年1月)

(全般)

- ・ WDL は人類の歴史の理解のための資料を世界中の人々に提供する。
- ・ 参加機関は、各国の文化を代表する資料を選定するとともに、所蔵する資料から、他国の歴史や文化に関係するものを選定する。
- ・ WDLの選定委員会は、「文字の歴史」といった重要なテーマについて、国際比較の観点で各参加機関に関連資料の選定を指示する。
- ・ 参加機関は特にユネスコの「世界の記憶登録簿」に記載されている資料やコレクションを重点的に提供する。
- ・ WDLの選定ガイドラインは、特に「世界の記憶」のガイドラインを参照して、精査され拡充される。
- ・ 参加機関は最終選定の前に、WDLのひな型に従って、重要性、データ容量、知的財産権の状況といった必要な情報を提供する。

(資料種別ごとの選定ガイドライン)

- ・ 手稿 重要な歴史文書、彩色や図示された手稿、カリグラフィー、聖典、日記や書簡
- ・ 図書 歴史・文化・文学・科学等の分野で希少かつ重要なもの
- ・ 印刷物 学術的に興味深いパンフレットやちらし(例えば、鉄道や船舶の時刻表、初期の広告や名簿)、大衆文化や日常生活を伝えるもの
- ・ 地図 探検家の手書き地図、初期の印刷地図、国家意識の形成に重要な役割を果たしたもの、産業・交通・民族や言語の分布を典型的に示したもの
- ・ 版画・図画 前写真時代の図画(例えば、重要な人物、出来事、社会、文化、経済、科学技術の発達などを示すもの)
- ・ 写真 日常生活、建物や施設のコレクション、訪問や記念のための編まれた写真集、重要な歴史的人物が所有していたコレクション、国宝のような遺産・記念物
- ・ フィルム 初期のフィルム、歴史的に重要なできごとや個人を映したクリップ
- ・ 音声記録 重要な歴史文化的できごとの記録、オーラルヒストリー

当館から提供したコンテンツ

(2009年4月21日時点)

百万塔陀羅尼

神護景雲4(770)刊
制作年代が明確な世界最古の印刷物。奈良時代の女帝、称徳天皇(718-770)の発願により、延命、除災のための経典である無垢浄光陀羅尼経の一部を印刷したもの。



もろもりき
師守記

中原師守自筆 暦応2-応安7(1339-1374)
南北朝時代の北朝方の官人中原師守(生没年未詳)の日記。

義経奥州下り

〔室町時代後期〕写
兄頼朝に追われ都落ちした源義経、弁慶らの一行が、奥州平泉の秀衡館に到着するまでの物語。

てんじんき

〔慶長(1596-1615)頃〕写
菅原道真(845-903)が神に祀られた由来を記した天神縁起を、絵入り本にしたもの。

源氏物語

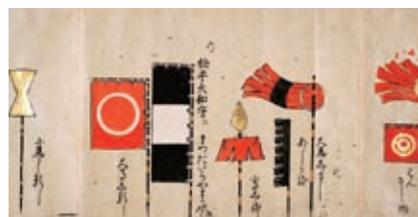
〔慶長年間(1596-1615)〕刊
古活字版。『源氏物語』の最初の刊本とされ、平仮名活字を使用した本としてもっとも初期のものといわれる。

十二月遊び

〔江戸時代前期〕写
当時、京の都で行われていた一年間の行事や季節の遊びを、月ごとに記した彩色絵巻。

御馬印

〔寛永年間(1624-1644)〕刊
総計170人の戦国武将の馬印を集める。



小袖曾我

〔寛文・延宝（1661-1681）頃〕写
幸若舞曲「小袖曾我」を題材にする横本の奈良絵本。

小倉百人一首

菱川師宣画 延宝 8（1680）刊
各ページに『小倉百人一首』の歌と歌人の肖像を掲出した絵本。

みめぐりのけい
三 囲 景

司馬江漢画 天明 3（1783）年
江戸時代後期を代表する洋風画家、司馬江漢（1747-1818）が創製した本邦最初の腐蝕銅版画（エッチング）。

南総里見八犬伝

曲亭馬琴著 柳川重信〔ほか〕画
文化 11- 天保 13（1814-1842）刊
安房里見家を舞台に八犬士の活躍を綴った読本^{よみほん}。

朝顔三十六花撰

万花園主人撰・服部雪斎画 嘉永 7（1854）刊
奇妙な形態の花や葉をもつ「変化朝顔」の数々が描かれ、もともと優れた朝顔図譜といわれる。

新政府綱領八策

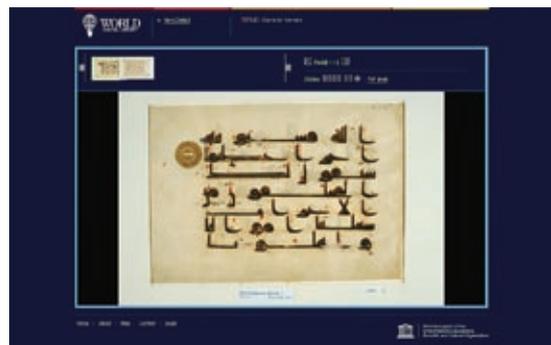
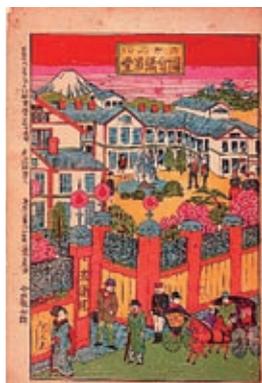
慶応 3 年 11 月
坂本龍馬（1835-1867）が起草して土佐藩重役に示した政体案。

国会議事堂錦絵（右図）

明治 28（1895）年 5 月
明治 24（1891）年 10 月に竣工した第 2 次「仮議事堂」を描いたもの。

日本国憲法 官報号外

昭和 21（1946）年 11 月 3 日
日本国憲法を公布する官報（号外）。



コーラン写本（断簡）

9 世紀

羊皮紙に記された、イスラム教の聖典コーランの一部で、勝利について説く第 48 章 10～11 節が含まれる。羊皮紙の表皮面に記されているため良い状態で残っている。米国議会図書館所蔵。



Military Exercises（軍隊の行進）

1854 頃

ペリー来航時の米軍の様子を日本人の画家が描いたもの。左側の建物は、日米和親条約（神奈川条約）が調印された応接所とみられる。ブラウン大学図書館所蔵。

（文責：総務部企画課電子情報企画室長

田中 久徳）

カウンターの裏側

申し込んだ資料はどのように出てくるの？

広い書庫から探し出し

利用したい資料を 申し込みます

NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書
検索・申込システム)で資料を検索し、
利用したい資料を申し込みます。



資料を取り出します

申込票の情報(請求記号等)をもとに、
担当者が書庫内で資料を探します。

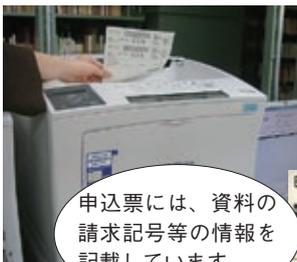


書庫には請求記号の見出しが
付いています。

資料は、背に請求記号
ラベルを貼り、請求記
号順に配列しています。

書庫にオンラインで 申込み情報が届きます

申込みと同時に、書庫で申込票
が印刷されます。



資料の近くにある
プリンターで申込
票を印刷するよう
あらかじめ設定し
ています。

申込票には、資料の
請求記号等の情報を
記載しています。



書庫から本を取り出したら「代木板」を入れます。
これが戻すときの目印です。

書庫にはさまざまな資料があるため、
資料の形態や使用頻度にあわせた書庫を設置しています。



可動式の集密書庫(左)は、面積あたり
の収蔵量が固定書庫(中)の約2倍です。

資料を傷めないよう、
注意して出納します。

■ どれくらい資料があるの？

国立国会図書館の蔵書は約3,600万点あり、そのほとんども書庫に収めています。書架の総延長は約560kmにも及びます。数が膨大なだけでなく、新聞やマイクロフィルム、巻物など、さまざまな形態の資料があり、専用のキャビネットに収納しています。

■ 利用者はなぜ書庫に入れないの？

資料を適切な環境で管理するため、書庫内は、温度22度、湿度55%前後に保たれています。多数の人が書庫に出入りをすると、これらを一定に保ちにくいだけでなく、資料を傷めるほ埃や塵の原因ともなります。

また、多数の人が書架から資料を出し入れすると、資料を傷めたり、資料の並び順が乱れたりする可能性があります。資料の並び順がいったん乱れてしまうと、広大な書庫の中から資料を見つけ出すのは大変困難です。そのため、決められた担当者が出納を行っているのです。

国立国会図書館が所蔵している資料の大部分は書庫に収められています。書庫の中の資料を利用する場合は、専用の端末を使って申し込み、所定のカウンターで受け取る仕組みになっています。

端末で申し込んだ資料がどのようにしてカウンターに届くのか、普段はお見せできないカウンターの裏側を、東京本館の本館書庫を例に紹介します。

国立国会図書館のしごとを図やチャートを使って説明します。読者のみなさんからは見えない図書館の裏側や、ぜひ知っていただきたいサービスなどを紹介していきます。

搬送機で運びます

カウンターに送ります

担当者が資料を搬送機に乗せ、カウンターに送ります。このとき資料の状態に問題がないかを確認します。



書庫からカウンターまではベルトコンベアでつながっています。

この箱に入らない大型の資料は、専用のリフトで運びます。



急ぎの連絡をする場合は…

「気送管設備」を使って、連絡事項を申込票に記して送ります。

筒状の入れ物（気送子）の中に、連絡事項を記した申込票を入れ、専用のパイプ（気送管）を通じて送ります。



カウンターで到着した資料を受け取ります

申込みから通常20～30分で資料が受取カウンターに到着します。



すぐに受け渡しできるように、台の上に利用者カードの番号順に並べます。



到着モニターにお知らせが出ます。



■ 書庫の中で資料はすぐ見つかるの？

資料には内容や形態等に応じて、それぞれ異なる請求記号を付け、その順に並べています。さらに、資料に1冊ごとにIDナンバーを付与して管理しており、補修作業中等の理由で別の場所にある資料の所在もわかります。担当者は、これらの情報をもとに迅速に資料にたどり着くことができます。

資料が見つからない場合は、すぐに複数の担当者が書庫に行き、より多くの目で本来の場所周辺だけでなく、その資料が紛れ込みそうな場所をくまなく探します。

■ NDL-OPACで便利になりました！

補修作業中等の理由で資料が利用できない場合、以前は、申込みを受けて担当者が資料を取りに行くまで、そのことがわかりませんでした。NDL-OPACの導入により、資料が利用可能であるかどうか、申込みの際にNDL-OPAC画面で確認できるようになりました。

また、資料の閲覧や複写を申し込む際にタイトルなどを手書きする必要がなくなりました。

(資料提供部図書課)

「若しくは」 → 「ジャクシクハ」？

総務課法規係は、仕事によくしゃべります。妙な話ですね。法規といえば文章のはず。実際、当係は様々な文章を日々作成しています。しかし、文章を作成するためにはしゃべる必要があるのです。理由は主に二つあります。

第一に、議論のためです。法規の役割の一つとして、大勢の職員が「国立国会図書館」として活動するための、共通のルールとしての役目があります。表舞台で仕事をしている部局からは、ルールを変えたいという要望や、ルールについての質問が、当係に寄せられます。

要望・質問に対しては、その法規だけではなく、当館の法規全体を考慮して検討します。また、ほかの法律との関係も無視できません。一人でこのような検討を完璧に行うのは困難です。そこで、複数の視点から検討できるように、係内で議論を行うことにしているのです。

当係では、議論の材料として、法規制定の経緯や、館内会議の記録などを用意しています。何十年前前の会議記録に、今日の課題を予見した議論が残されているのを見つけた時は、会ったこともない当時の職員に対して、一緒に仕事をしたかのような親しみを覚えたものです。

第二に、法規を正確に作成するためです。法規の文章は、厳密な文法に従って作成する決まりになっています。また、起草された文章だけ



が有効な法規となるので、議論の成果が正確に表現されなければ困ります。

そのため、よく確認しなければいけないのですが、目で見ただけでは限界があります。そこで、当係は「読み合わせ」という作業を行っています（写真）。これは、一人が文章を読み上げるのを、ほかの人が聞いて確認していく、というものです。その際、同音異義語や漢数字・算用数字の使い分けなどをチェックするために、特殊な読み方をします。「館長及び」であれば、「ヤカタオサキユウビ」という具合です。

これを延々続けるのですから大変です。訳のわからない言葉が聞こえてくるほかの係の人たちは、もっと大変かもしれません。

（総務課法規係 Curious George）

日本の近代政治史料を探る

憲政資料の収集 「松下芳男関係文書」を例に

国立国会図書館では、幕末から現代までの政治家や官僚、軍人の手元にのこされていた手紙や日記、書類といった資料を中心とする「憲政資料」を収集し、東京本館の憲政資料室で公開しています。憲政資料のおもな収集手段は、ご遺族などのご厚意による寄贈や古書店からの購入です。研究者にご遺族との仲介をしていただいて、資料を収集することも多くあります。ここでは、「松下芳男関係文書」の寄贈を受けるまでの様子と公開された資料の内容を簡単にご紹介します。

憲政資料室の
所蔵資料から
「井上馨関係文書」



憲政資料室



某月某日 資料の情報を得る

憲政資料を担当する非常勤調査員からメールが届きました。「ある研究者が松下芳男氏ののこした資料の受入れ先を探しており、憲政資料室をその候補に考えている。連絡をとってみてはどうか」という内容で、資料の概要も付されていました。

早速、松下氏について事務室（写真1）の人物事典や歴史事典、便覧類で調べてみると、次のことがわかりました。

1892年5月4日新潟生まれ。陸軍士官学校を経て陸軍少尉、中尉となるも1920年に「社会主義に共鳴する中尉」と新聞に報道されて停職となり（1921年7月に予備役）、東京に出てきて1921年から24年に、星島二郎、片山哲が中心となった法律雑誌『中央法律新報』の編集を任されました。このころ、同誌の原稿依頼等で牧野英一や三淵忠彦といった人々と知り合っています。1930年12月には社会民衆党中央執行委員、1932年1月には同党中央委員となっています。その後、日本大学講師や、教育総監部嘱託を経て、戦後1952年に工学院大学講師（後に教授）となり、1954年10月、法学博士号を取得し、1983年4月9日に亡くなりました。

松下氏は日本軍事史の研究で名高く、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で調べてみると、『明治軍制史論』（有斐閣、1956）、『徴兵令制定史』（内外書房、1943）など、100点を超える著作があることがわかりました。松下氏の伝記である中島欣也『銀河の道』（恒文社、1989）も見つかりました。

資料の概要と松下氏の履歴を考えあわせると、のこされた資料は、片山哲など国政レベルの政治家からの書簡を含む日本近代の政治史料であり、当館の収集方針に合致するものと判断できました。



写真1

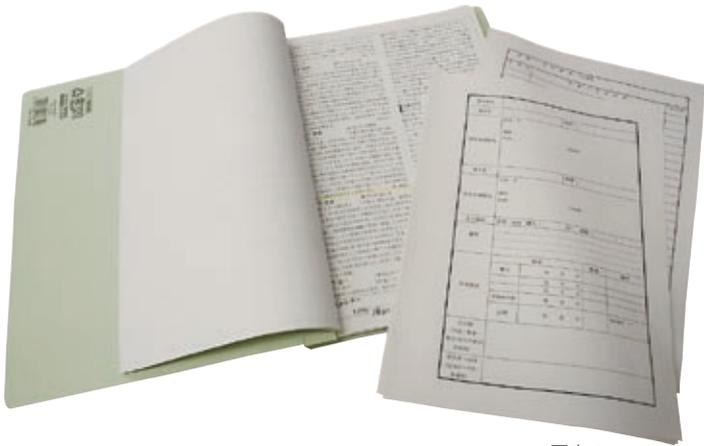


写真2

まず、憲政資料室で文書群ごとに来歴や寄贈に関する交渉を記録しているファイル（通称、一件ファイル）（写真2）を用意しました。文書群名を仮に「松下芳男関係文書」とし、関係者の連絡先や作業・交渉経過の記入をはじめました。先ほど調べた履歴などの関連する情報も一緒に挟んでおきます。

某月某日 仲介者、ご遺族と連絡をとる

仲介して下さる研究者に連絡をとり、資料を当館に寄贈していただく方向で話を進めたい旨を伝えました。研究者のお話では、資料は大きめのダンボール箱で1箱くらいの分量で、点数は200点弱、関係者からの手紙や葉書、ビラや原稿の類なども含まれているようでした。さらに、ありがたいことに、資料のリストを作成していただけることになりました。

そこで、ご遺族と電話で連絡をとり、今後の進め方についてお話し、実際に資料を受け取る方法について相談しました。分量や置いてある場所を確認し、こちらから受け取りに伺うことになりました。

某月某日 資料を受け取る



写真3

ご遺族のお宅に伺ったところ、資料はすでにダンボール箱に入れて、玄関に用意してありました（写真3）。早速、中身を簡単に確認し、資料のことや松下氏が晩年に研究していたテーマについてお話



大杉栄から譲り受けたという筆筒。松下氏は同郷の大杉と大正期に親交を深めていた。



写真4

を伺いました。その後、書庫(写真4)などを見せていただきました。さらに、辞令や寄書帳の類などダンボールに詰められた資料以外のものも見せてもらい、そのうちいくつかを受け取って図書館へ戻りました。忘れないうちに今日伺ったお話について記録を作成し、「一件ファイル」に挟みました。

某月某日 資料を整理する

憲政資料室で資料を公開するため、受け取った資料を1点ごとに確認し、目録を作成します(写真5)。現存している資料や履歴、著作などを元に、その人の活動がわかるような目録とするため、現存している



写真5

資料や履歴、著作などを元に大まかな分類項目をつくります。資料1点ごとに、タイトル、作成者、作成年等を記録していきます。今回はあらかじめ仲介者に作っていただいたリストをもとに目録を作成しました。

手紙やはがき、書類の類は、憲政資料用の整理封筒(中性紙)に詰めて、書庫(写真6)に収めます。請求番号が決まるとその順に並べ替えています。



写真6

これらの作業が完了した段階で、ご遺族と当館の間で寄贈の手続きをとり、憲政資料室で公開できるようにします。

公開資料から

今回寄贈された「松下芳男関係文書」計699点については、松下宅が終戦前の戦火で全焼したためか、戦前のものよりも戦後の資料が多いといえます。著書寄贈への礼状を含めて松下氏あての手紙や葉書が多くのごさされています。手紙の発信者は軍人関係、大杉栄関係、『中央法律新報』関係者(片山哲、牧野英一等)に分かれます。そのほかに書類として、松下氏が研究のために集めた写真類や著作のゲラ、辞令類を含んでいます。

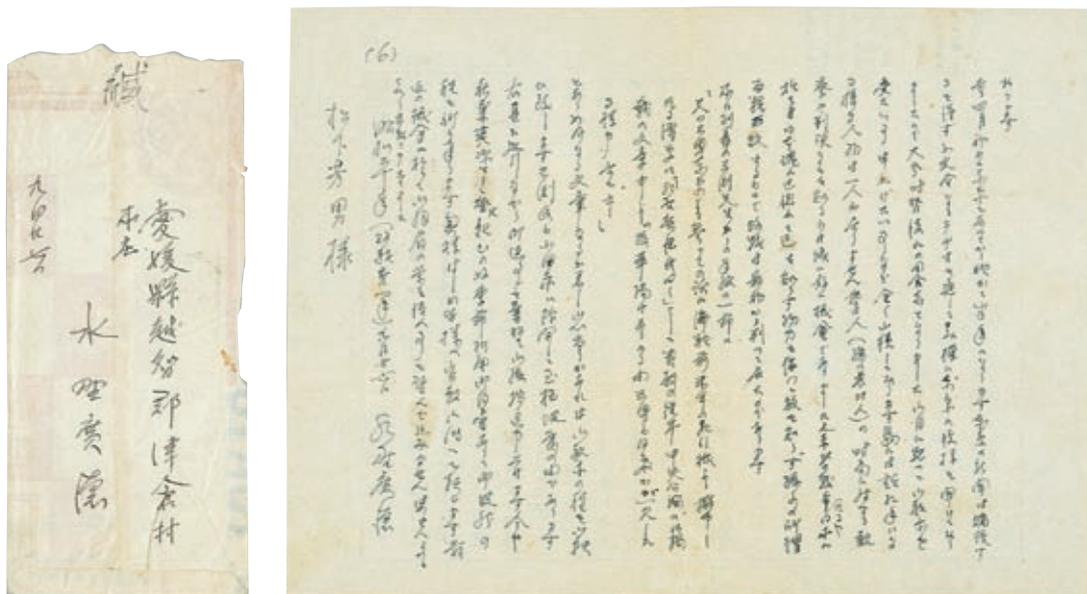


写真7 水野広徳の書簡（松下芳男関係文書 434）

特に水野広徳の手紙はまとまってのこされています。水野広徳（1875-1945）は海軍の軍人で、退役後は本格的に軍事評論家として活動しました。松下氏は1922年に軍備縮小同志会を訪れ、水野の面識を得て、その後は師事しています。水野の没後には、『水野広徳』（四州社、1950）という水野の伝記を書き、さらに水野の歌碑を自費で彼の郷里に建立しています。この活動を示す資料ものこされています。

掲出した手紙（写真7）は水野が疎開先の伊予大島から送った1945年9月26日のもので、3枚の原稿用紙の裏表に書かれたものです。「戦局も案外あっさり終末を告げ爆弾心中だけは免れたもの、無条件降伏とは聊か平和の薬が利き過ぎた

感があります」と感想が記され、軍人が復員時に物資を横領していることや東条英樹の自殺失敗、皇族内閣等の時局批判があり、松下氏からこの手紙の前の葉書で次の選挙への出馬を勧誘されたことについては、退けています。これを含めて松下芳男宛の手紙は『水野広徳全集』第7巻（雄山閣、1995）に収録されています。

一方、水野の知遇を得たころ、松下氏は永久平和研究会を組織しようとはしますが、関東大震災のためにそれどころではなくなり、同会への参加予定者の渡欧もあり、実現できませんでした。ただ、その渡欧者の送別会がきっかけとなって、毎月第二火曜日にあつまるという会合、「二火会」が成立します。寄せ書き帖（写真8）には、会合の日時、

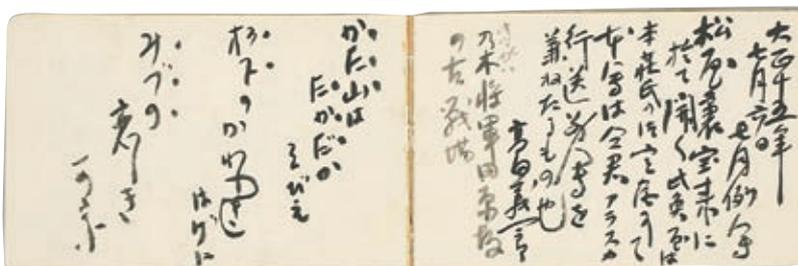


写真8 二火会例会記録帳 (松下芳男関係文書 532)

参加者、参加者の言葉、似顔絵、ざれ唄その他いろいろなことが記されています。

また、二火会の参加者でもあり、法学者で明治文化史研究者の尾佐竹猛(1880-1946)と、『中央法律新報法』の編集者のころに親しくなっています。尾佐竹が戦前、松下氏の著書を林銑十郎などに寄贈しており、返礼の葉書も「松下芳男関係文書」にのこされています。尾佐竹とは終生、深交があり、その没後、全集刊行の際には松下氏が解題の執筆などで関与しています。1945年9月8日付の尾佐竹猛からの手紙(写真9)では、疎開先の福井県で空襲によって原稿が燃えてなくなってしまったことや、今後田舎にとどまるかどうかといった身の振り方についてなどが記されています。

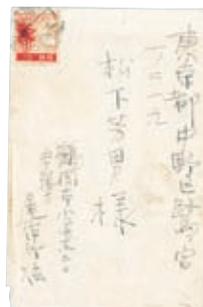


写真9 尾佐竹猛の書簡(松下芳男関係文書 392)

憲政資料室のご案内

場 所：東京本館 4 階

所蔵資料：幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた私文書を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、おもに北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を所蔵しています。

(主題情報部政治史料課)

本屋に ない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

海辺の小屋

新潟の舟小屋・浜小屋・番屋

柏崎ふるさと人物館刊

〒945-0051 新潟県柏崎市東本町1-4-11

2008.4 51頁 B5

<請求記号 GD11-J6>

巻頭から30ページにわたって、1ページ当たり2×4で8枚ずつ、240枚のモノクロ写真が並んでいる。

柏崎ふるさと人物館の「調査報告書」だが、同館が実施した企画展「写真展・海辺の小屋—新潟の舟小屋・浜小屋・番屋—」の図録を兼ねるとのことである。

いずれも海辺の小屋ではあるが、海に向かう側道沿い、砂浜、河口、人工海岸など、立地は様々で、屋根の形や全体のたたずまいにも、個性のようなものがある。

ほとんどの写真には人影がなく、どこかで見た風景のようにも思える。

これらの小屋は、住居と漁場との中間に位置する作業・収納の場である。多くは簡易なつくりで、人は常住していない。

漁港漁場整備法（昭和25年法律第137号）に基づく漁港整備事業の推進に伴い、小屋は新しい港に集約されていった。従来の小屋は消滅し、廃墟化したものもあるが、一部は転用されるなどして今でも使われ、目にすることができる。

35ページから43ページにかけての「海岸点描」と題する部分は、残された小屋のいくつかを類型化し、写真と対応させつつ、それぞれの歴史的背景や用途について解説を加えている。

数少ない類書である『舟小屋 風土とかたち』（INAX 出版刊2007.3）<請求記号 DM674-H21>

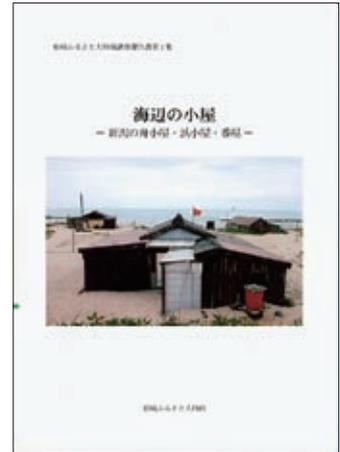
によれば、こうした小屋は、日本海側に多く残されている。理由として、潮の干満差が小さく、海面近くに小屋を建てやすかったこと、冬場の積雪や海の荒れにより、舟を収納する必要があったこと、太平洋側に比べ、海岸整備が遅れたことなどが挙げられている。

本書を読んだ後、直江津、糸魚川を経て、北陸に行く機会があった。車窓から注意して海辺を見ると、こうした小屋をいくつか目にすることができた。

「あとがきに代えて」と題するページには、「小屋は面白い」と先輩の学芸員から6年ほど前に教わったこと、当時は小屋が研究対象になることに驚いたこと、海岸線の様子と漁業をとりまく状況の変化によって、おそらく数十年後には県内全域において、多くの小屋が姿を消すことが予想されることなどが記されている。

消滅しつつある海辺の小屋という建築群に着目し、地域において記録にとどめたものとして、独特な印象を与える本である。

いだ あつひこ
(井田 敦彦)



旅

江戸の旅から鉄道旅行へ 企画展示

人間文化研究機構国立歴史民俗博物館編・刊
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地
2008.7 126頁 A4 <請求記号 GD15-J4 >

本書は、平成20年7月1日から8月31日まで、国立歴史民俗博物館で開催された企画展示「旅—江戸の旅から鉄道旅行へ—」展の図録である。冒頭に収録された「永禄六年北国下り遣足帳」によると、戦国時代の永禄6（1563）年の時点で、少なくとも近江から越後までの間は一人当たり1泊2食24文が相場であり、すでに多くの人々が旅をしていたことが推測されるという。本書は、こうした戦国時代の資料に始まり、昭和30年代までの旅行に関する資料（旅行記、観光地の絵図、旅行ガイド、時刻表など）が色鮮やかな図版で楽しめる内容となっている。特に、筆者の目を引いたのは、菅田浜次郎の「国立公園大箱根勝地漫画」（時期不詳）や、東京漫画会同人画の「東海道五十三次漫画絵巻」（大正11年）の旅情を誘う、味のあるイラストである。

図録にあわせて、江戸・明治時代における旅に関する民俗学的な小論が6篇収録されている。加藤貴氏の「江戸北郊名所への小さな旅」では、江戸時代の日帰り旅行の一例として、王子・滝野川での花見や王子権現社の祭礼の様子が描かれている。

原淳一郎氏の「近世の寺社参詣と御師」では、等々力豊田家の伊勢参宮の例が取り上げられている。「御師」というのは、檀家宅を廻って札や暦・薬などを配り檀家に参詣を促し、かつ参詣者に宿と祈祷を提供するなど、寺社と参詣者との間をとりもつ存在であったという。こうした御師が豊田家の伊勢参宮の

際、どのような役回りを負ったかについて記述されている。

西海賢二氏の「逃亡者としての旅」では、淡路縄騒動といわれる百姓一揆に深くかわり、殺人を犯すところとなり、そ

の後逃亡しながら廻国修行をすることによって、民間宗教者となった木食勸正という木食僧（米穀を断った僧）の寛政9（1797）年に始まる日本廻国の修行の旅の様子が描かれている。

平山昇氏の「初詣の歴史」では、明治期に初詣という習慣がどのように生まれていったかということについて論じられている。これによると、首都圏で最初に初詣が定着したのは、川崎大師であるとのことである。また、初詣客の増大が鉄道のサービス競争の結果であること、初詣が特に何らかの信仰に基づいて形成されたものではなく、祈願内容は時代を反映し、様々な変遷を経てきたことなどが紹介されている。

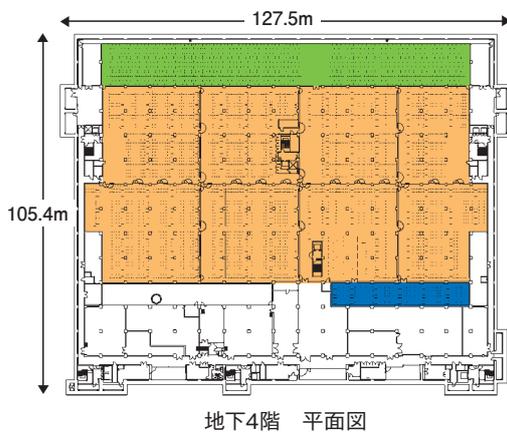
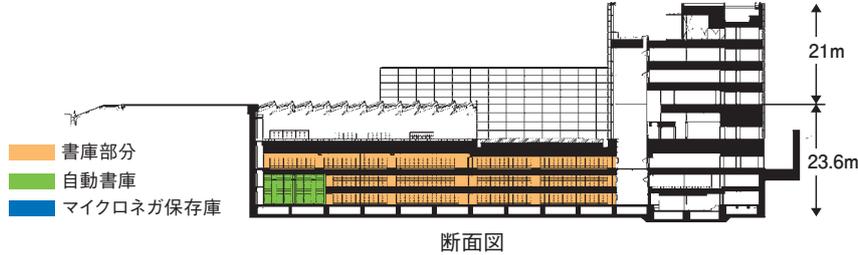
そのほか、紙幅の関係上内容の紹介を省略するが、山本志乃氏の「女たちの伊勢音頭」、櫻井邦夫氏の「二つの史資料にみる江戸時代の旅の一断面」が収録されており、本編の豊富な図録とともに江戸時代における旅の諸相を読者に伝え、本書を興味深い一冊としている。

やまおか のりお
(山岡 規雄)



第2回 関西館・国際子ども図書館

■ 関西館書庫



関西館は、平成10年に着工し平成14年に完成しました。地上4階、地下4階の建物は、およそ60,000m²の延床面積があり、その約8割が地下に置かれています。地下2階から地下4階の書庫には、約600万冊分の収蔵スペースがあります。

書庫を地下に配置することで、地震の影響が少ないというメリットがありますが、浸水のおそれがあるため、防水壁はもちろん、書庫の周囲には機械室や廊下を配置し、書庫内への浸水を二重に防御しています。

地下2階から3階には利用頻度の高い資料を保管する固定書架(写真1)、地下4階には電動集密書架が設置されています。また、地下3階と地下4階の北側を吹き抜けにし、自動書庫を設置しています。



写真1



写真2 搬送シャフト

地下1階から地下4階の書庫および事務棟の吹き抜け部分を上下に移動する搬送設備が設置しています。

広い書庫内での作業を効率的にするため、書庫両端と中央に資料搬送機やエレベーターなどの設備を配置しています。

書庫内には、東京本館と同様に、広大な書庫内や事務棟を結ぶ書籍搬送設備があります。地下2階書庫の天井に設けられたレール上を自走式の台車(写真3)が走り資料を搬送しています。レールの長さは約750m、台車の最高速度は120m/分です。



写真3

搬送設備を操作するステーション(写真4)は、合計28か所設置されています。ステーションでは、資料を入れたトレイが書庫とカウンターの間を行き来します。



写真4

書庫の色分け

書架は、8色に色分けされており、書庫の南エリアは赤や黄色の暖色系の色、北エリアは青や緑の寒色系の色が付けられています。

東京本館でも、色分けや区画分けなどの工夫をしています。

■ 国際子ども図書館書庫



写真7

国際子ども図書館の建物は、明治39年に建設、昭和4年に増築され、その後、国際子ども図書館として開館するにあたり、平成14年5月に全面リニューアルされました。

旧帝国図書館の建物は、東京都の「歴史的建造物」にも指定されており、歴史的価値が高い建物であったため、建物の原形保存に努めながら免震を施す免震レトロフィット工法を採用しました。

免震工事では、建物を油圧ジャッキで持ち上げ、建物地下部分に免震装置を設置しました。免震装置は、積層ゴムアイソレーター（写真5）と鉛ダンパー（写真6）で構成されています。

アイソレーターとは、地盤から建物を宙に浮かせて、地震の揺れを受け流しつつ、建物重量を支えるためのものです。しかし、アイソレーターだけでは、地震の揺れを小さくするだけで、建物の揺れがなかなか収まらないので、鉛ダンパーが設置されています。



写真5



写真6

現在の書庫部分は、当初も書庫として建設されていましたが、集密書架（写真7）を設置する強度が足りないことや、建築基準法の基準を満たす防火性能を確保するために、書庫内部の床、柱などを取り壊し、新たに床を作り直しています。建物の2階から4階を全6層の書庫としており、約40万冊の収蔵能力があります。書庫内では、窓部分を内部からふさぎ（写真9）、その内側に機械室を作り、日射や外気の温度変化が伝達しにくい造りとしています。

写真8 外側からは窓に見えるが、内側は写真9のようになっています。



写真9

	関西館	国際子ども図書館
延床面積	59,311m ²	6,671m ²
書庫面積	23,926m ²	1,525m ²
完成	平成14年	明治39年 昭和4年（増築） 平成14年 （全面リニューアル）

関西館、国際子ども図書館の書庫をより深く知るために

- 『国立国会図書館関西館事業記録』国土交通省近畿地方整備局営繕部 2002.8 <請求記号 UL521-H4>
- 『国際子ども図書館事業記録集』国土交通省関東地方整備局営繕部 2002.3 <請求記号 UL521-H5>

（総務部管理課）

医療情報、技術情報の調べ方

図書館で学ぶ 第3回

調べものに役立つ情報や資料の活用法など、国立国会図書館ならではの知識を紹介します。

国立国会図書館は、我が国の科学技術関係資料の提供・保存機関として、科学技術振興政策に基づいて資料を収集しています。今回は、科学技術分野のうち、一般的にもニーズの高い医療情報と技術情報の調べ方をご紹介します。また、科学技術分野の文献を入手するための方法をご案内します。

医療情報

近年、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの概念が浸透し、患者は、病気の治療方針について医師にすべてを任せるのではなく、自分自身で医療情報を入手し、医師との話し合いで治療法を選択することが増えてきています。このような状況の下、医療情報のニーズが高まっています。ここでは、主に患者やその家族が必要とする医療情報の調べ方をご紹介します。

おもな資料

医療情報を調べるためのおもな資料として、次のものがあります。なお、医療情報は、年々著しく進歩し変化するので、できるだけ刊行年の新しい資料を参考にすることが重要です。

・総合的な医学書・医学事典類

医療について調べるときの基本資料です。

・診療ガイドライン

特定の臨床状況のもとで、臨床医と患者が適切な医療について決断を行えるよう支援するために作

成されたもので、当該疾患について調べる際の基本的な資料です。

・雑誌論文

主に最新の研究成果が掲載される資料で、図書よりも情報鮮度が高いことが特徴です。中には、関連研究を総括して解説する論文もあり、治療法の最新動向を知るのに役立ちます。

・闘病記

実際に病気にかかった患者やその家族などが執筆した記録です。患者にとって参考になる場合が多いのですが、科学的根拠に欠ける場合や著者の主観に基づく記述が多いものもあり、利用の際は注意が必要です。

ここでは、医療に関する図書と雑誌論文を探してみましょう。

図書の調べ方

まず、図書を調べてみます。

例えば糖尿病の治療法についての日本語の本を読みたい場合は、次のような探し方があります。

①「病気（疾病）別医療情報ガイド」から探す

当館ホームページ「リサーチ・ナビ」の「病気（疾病）別医療情報ガイド」では、入門書や概説書のうち最近出版されたおもな資料の書誌情報（タイトル、著者、出版者等）を、病名別に、内容の解説を付して紹介しています。「糖尿病について調べる」のページでは、『科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 改訂第2版』（南江堂）や入門用に平易に書



リサーチ・ナビ (<http://rnavi.ndl.go.jp>)
 しらべるヒントー科学技術・医療
 ー文献・ツール紹介サイトー医療・健康

かれている『わかりやすい糖尿病テキスト』（じほう）
 などが見つかります。

② NDL-OPAC で探す

「病気（疾病）別医療情報ガイド」に掲載されていない資料や、特定の療法などについて書かれた資料を探したい場合は、当館の蔵書目録である NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で和図書を検索します。当館では、納本制度により国内の刊行物を広く収集し、その詳細な書誌情報を作成して NDL-OPAC で検索できるようにしています。

タイトルに病名を入力して検索するほか、件名（資料の主題（テーマ）を表す語）を利用すれば、タイトルに病名を含まない資料も探すことができます。件名「糖尿病」で検索すると、タイトルに「糖尿病」が含まれない『医師と栄養士と患者のためのカーボカウンティング実践ガイド』（医薬ジャーナル社）などが見つかります。

③ 目次情報から探す

当館ホームページ「リサーチ・ナビ」での目次データベースの検索も有効です。医療分野については、事典類や医薬品集など、調べものに有用と考えられる資料約 3,000 点の目次情報が登録されています。「リサーチ・ナビ」トップページ上部の検索窓から検索します。検索結果「本・サイト」の「…もっと見る」をクリックすると、「内容情報からさがす」に一覧が表示されます。『内分泌・代謝系疾患の薬物治療』（薬事新報社）などが見つかります。なお、目次データの収録には時間がかかりますので、ご利用の際はご注意ください。



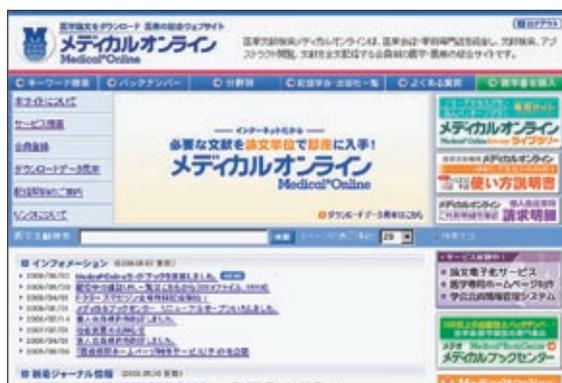
「リサーチ・ナビ」トップページ上部の検索窓から検索し、検索結果「本・サイト」の「…もっと見る」で「内容情報からさがす」に一覧が表示される。

雑誌論文の調べ方
(医療情報に特化したデータベース)

雑誌論文を探すには、当館の雑誌記事索引や国立情報学研究所 (NII) が提供する CiNii (NII 論文情報ナビゲータ <http://ci.nii.ac.jp/>) などのデータベースを利用するほか、次のような医療情報に特化したデータベースがあります。

・メディカルオンライン

医療関係者向けのデータベースです。日本国内で発行された医学関連雑誌725誌(平成21年4月現在)に掲載されている論文を採録しています。検索は無料です。アブストラクトや全文の閲覧は有料で、会員登録が必要です。会員登録の対象は、医療関係者等に限定されています。



メディカルオンライン (<http://www.meteo-intergate.com/>)

・Web 患者図書館

日本病院患者図書館協会が提供するデータベースです。一般向けの医学書、医学雑誌、新聞記事を無料で検索することができます。採録対象は少ないですが(平成21年5月末現在で雑誌8誌、新聞4紙)、雑誌記事索引では採録していない『NHK きょうの健康』(日本放送出版協会)や『暮しと健康』(保健同人社)のような一般向け雑誌や新聞の医療関連記事を収録しているのが特徴です。

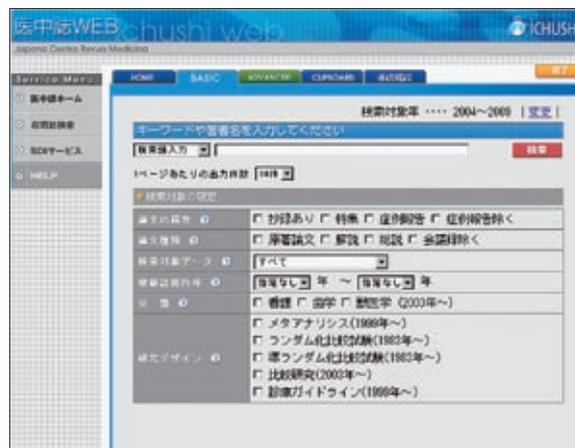


Web 患者図書館
(http://mba-web.co.jp/opac/jhpla_opac1.php4)

・医中誌 Web

医中誌 Web は国内の医学文献に関する代表的なデータベースで、医学中央雑誌刊行会が国内医学文献についての二次情報*を採録した『医学中央雑誌』(1903年創刊)のオンライン版です。採録対象は約5,000誌の医学・歯学・薬学およびその関連領域の国内発行資料(改題や休刊・廃刊した雑誌を含む)で、1983年以降に刊行されたものの書誌情報およびアブストラクトを検索することができます。

医中誌 Web を利用するためには契約が必要ですが、当館では東京本館および関西館でご利用になれます。公共図書館等で利用できる場合もありますので、お近くの図書館等にお問い合わせください。



医中誌 Web

* 文献の存在や所在、書誌情報、内容などに関する情報。

技術情報

今日、科学技術の世界では、急速な技術革新が様々な分野で起こっており、最新の技術情報を把握することは多くの企業にとって必要不可欠となっています。ここでは、ビジネスユーザーからの要望が多い「技術情報」の調べ方についてご紹介します。

技術動向レポート

最新の技術情報を調べる資料の一つとして、「技術動向レポート」と呼ばれる、特定の技術に関して、企業等の第一線で実務に携わる技術者が執筆している総説的な資料があります。雑誌投稿論文に比べ、若干情報鮮度が劣る面はありますが、技術情報として質が高く、技術動向を知る上で有益です。扱われている分野は、ファインケミカル、エレクトロニクス、新材料・新素材、バイオ、食品、環境・エネルギー、医薬品、医療機器、化粧品、電子デバイス、ナノテクなどで、シーエムシー出版、技術情報協会、東レリサーチセンター、電子ジャーナル、サイエンス&テクノロジー、エヌ・ティー・エスなどの出版社が刊行しています。

例えば「色素増感太陽電池」に関する技術動向レポートを探す場合は、NDL-OPACでタイトル「色素増感太陽電池」で検索するほか、先に紹介した当館の目次データベースを利用すると、タイトルに「色素増感太陽電池」が含まれない『新しい有機太陽電池のオールプラスチック化への課題と対応策』（技術情報協会）なども見つかります。

雑誌論文の調べ方

技術情報に関する雑誌論文の検索には、当館の雑誌記事索引や国立情報学研究所のCiNiiのほかに、科学技術振興機構（JST）が今年の3月30日から提供を開始したJ-GLOBALも有力なツールです。

研究開発に利用される情報を収録したもので、関連するデータはリンクにより参照できるようになっています。平成21年5月末現在は試行版ですが、JSTの有料データベースJDream IIに収録された2003年以降の書誌データなどを無料で簡易検索することができます。

J-GLOBAL (<http://jglobal.jst.go.jp/>)

J-GLOBAL 検索結果表示画面

科学技術分野の外国語論文

これまで、日本語文献を多数収録するツールを中心に紹介してきましたが、外国語文献を探す場合には、以下のツールがあります。

・ IngentaConnect

(<http://www.ingentaconnect.com/>)

Ingenta 社の提供するデータベースで、約 31,000 タイトルの雑誌・図書（電子ジャーナル約 11,000 誌を含む）を対象に、ダウンロードや複写物による文献提供サービスを行っています（いずれも有料）。書誌情報の検索およびアブストラクトの閲覧は無料です。詳しくは、当館ホームページ「リサーチ・ナビ」の「IngentaConnect で洋雑誌論文を検索し、原文献を国立国会図書館から入手する」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400092.php) をご覧ください。

・ British Library Direct

(<http://direct.bl.uk/bld/Home.do>)

英国図書館 (British Library) が提供しているデータベースです。過去 5 年間の、英国図書館で利用の多い雑誌 2 万タイトルを収録しており、ダウンロードや複写物による文献提供サービスを行っています（いずれも有料）。書誌情報の検索およびアブストラクトの閲覧は無料です。詳しくは当館ホームページ「リサーチ・ナビ」の「British Library Direct - 英国図書館の雑誌記事索引」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400159.php) をご覧ください。

このほか、Google Scholar (<http://scholar.google.co.jp/>) や Scirus (<http://www.scirus.com/>) などの学術文献に特化した検索エンジンで論文を探すことも可能ですが、上記のツールと異なり、論文の入手

に直結しないケースも少なくありません。その場合は、論文を特定し、遠隔複写サービスを提供する当館や JST などのオンライン蔵書目録で、その論文が掲載されている雑誌の所蔵機関を調べ、複写サービスを申し込みます。当館以外の機関からの文献入手については、当館ホームページ「リサーチ・ナビ」の「国立国会図書館以外の主要な科学技術文献所蔵情報」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400099.php) をご覧ください。

なお、当館では東京本館、関西館で電子ジャーナルをご利用になれます。科学技術分野では、ScienceDirect（全般）、IoP（物理学）、BioOne（生物学）などのデータベースを提供しています。

（記事中のウェブサイトの最終接続日は 2009 年 6 月 30 日です）

この記事は昨年 12 月に図書館員を対象として行った科学技術情報研修を題材にしています。昨年の研修の講義資料は、国立国会図書館ホームページ「図書館員の方へ—図書館員の研修—過去の実施研修—平成 20 年度研修講義資料研修」(http://www.ndl.go.jp/jp/library/training/library_training2008.html#shiryou) のページでご覧いただけます。

（主題情報部科学技術・経済課）

今回は、明治・大正の新聞記事の調べ方を紹介します。

■ 宮本沙海氏から
墨画寄贈

4月30日、書画家の宮本沙海氏から自筆墨画3点の寄贈を受けた。

宮本氏は昭和14年生まれ、墨調社主宰、国際書画連盟常任理事。

寄贈された墨画は「紫陽花」(180cm×90cm、軸装)、「屋久島 紀元杉」(140cm×70cm、軸装)、「石神井公園 三宝寺池」(20号、額装)である。



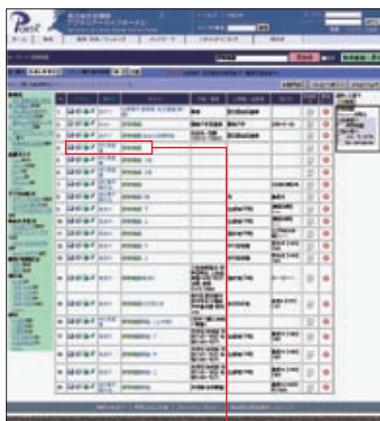
「屋久島 紀元杉」



「紫陽花」

お知らせ

■ PORTA を リニューアルしました



検索結果一覧表示の例



アイコンは左から
資源タイプ（テキスト、画像、動画等）
デジタル区分
（一次情報／二次情報の区別など）
Web 入手区分
有料／無料区分
上の例はデジタル化された『伊勢物語』で、
国立国会図書館の貴重書画像データベースに
収録されており、無料で閲覧、ダウンロード
できることを示します。

7月7日に、国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)をリニューアルしました。

PORTAは、当館の持っているコンテンツだけでなく、外部のさまざまな連携協力機関のデジタルコンテンツをまとめて検索し利用できる、我が国のデジタルアーカイブへのポータルサイトです。6月末現在、41種類のデジタルアーカイブ等をPORTAから利用できます。

新しいPORTAにおける、おもな機能改善と新機能は次のとおりです。

- 検索応答速度が速くなりました。
- 検索結果一覧表示が見やすくなりました。
 - ・一次情報（コンテンツそのもの）が利用できるものを先に表示するようにしました。
 - ・検索結果を、コンテンツの提供機関、NDC（日本十進分類法）、刊行年等で絞込みできるようにしました。
 - ・アイコンにより、わかりやすく表示するようにしました。例えば、検索してヒットしたコンテンツが、一次情報なのか二次情報（書誌データのみ）なのかをアイコンで区別できるようになりました。
- ブックマーク（PORTA利用者がコンテンツにコメントを付け、共有する機能）が使いやすくなりました。PORTAで提供するコンテンツの内容を知り手がかりの一つとしてお役立てください。
 - ・ブックマークを、ユーザ登録しなくても見ることができるようになりました。
 - ・代表的なソーシャルブックマーク（はてなブックマーク等）に、PORTAの検索結果詳細表示を簡単に登録できるようになりました。

今後も引き続き、PORTAで利用できるコンテンツの充実に努めてまいります。ぜひご活用ください。

○ URL <http://porta.ndl.go.jp/>

○お問い合わせ先

国立国会図書館関西館 電子図書館課ネットワーク情報第一係

電子メール porta@ndl.go.jp

PORTAの「お問合せフォーム」もご利用ください。



お知らせ

■ ISSN 登録した 国内オンラインジャーナルの リストを掲載しました

7月17日から、ISSN登録手続の完了したオンラインジャーナル約700件の書誌データを、試験的にリスト形式で当館ホームページに掲載しています。

当館はISSN日本センターとして、国内で刊行されたオンラインジャーナルへのISSN付与・書誌データ作成、ISSN国際センターへのデータ送付を行っています。これらの書誌データはNDL-OPACには収録されていません。登録(有料)が必要なISSN国際センターのデータベース「ISSN Portal」(<http://portal.issn.org/>)においてのみ参照可能です。

そこで、これらの書誌データを広く一般に提供する方法を検討する中で、試験的にリストを掲載することとしました。今後は、いただいたご意見をふまえて、提供方法をさらに検討していきます。

※ISSNとは、International Standard Serial Number(国際標準逐次刊行物番号)の略で、雑誌、新聞、年鑑等のいわゆる逐次刊行物に与えられる国際的なコード番号です。「ISSN日本センター」のページでは、登録手続を含め、ISSNについての詳細をご案内しています。

※データの内容は、ISSNを登録した時点のもので、ISSN登録後に、URLや出版者等が変更されている可能性があります。現状と異なる点がありましたら、以下にお知らせください。

- URL http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn_02.html#onlinej
国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)
—「国立国会図書館について」—「資料収集・保存：ISSN日本センター」

○おもなデータ項目

タイトル、巻次・年月次、出版地、出版者、出版年、刊行頻度、URL、ISSN、関連する印刷物等のISSN、ISSN-L*、分類記号

* Linking ISSNの略称。ISSNと対で付与される。同じ内容の逐次刊行物が複数の媒体で刊行される場合、ISSNは媒体ごとに異なるが、ISSN-Lは同一番号となる。

○お問い合わせ先

国立国会図書館 収集書誌部逐次刊行物・特別資料課整理係
電話 03(3581)2331(代表)
電子メール issnjpn@ndl.go.jp



お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「世界をつなぐ子どもの本— 2008年度国際アンデルセン 賞・IBBY オナーリスト受賞 図書展」

国際子ども図書館では、国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催で展示会を開催します。

この展示会では、IBBY が表彰する国際アンデルセン賞の2008年受賞者の邦訳書とIBBY オナーリストの2008年の掲載図書、およびその邦訳書約210冊を展示します。

国際アンデルセン賞は「小さなノーベル賞」とも呼ばれ、2年に1度、児童文学の分野で卓越した業績をあげた作家および画家に贈られます。2008年はユルク・シュービガー氏（スイス）が作家賞を、ロベルト・インノチェンティ氏（イタリア）が画家賞を受賞しました。

IBBY オナーリストは、IBBY の各国支部が、外国に紹介したい作品として、自国で新しく出版された児童書の中から選んだ本のリストです。「文学」・「イラストレーション」・「翻訳」の3部門からなり、2008年は58の国と地域から169の作品が選ばれました。日本からは、文学部門では高樓方子氏の『おともださにナリマ小』、イラストレーション部門では荒井良二氏の『たいようオルガン』、翻訳部門では千葉茂樹氏の『おりの中の秘密』が選ばれました。

今回の展示会では、展示資料を所蔵するJBBYの協力を得て、58の国・地域から選ばれた世界の新しい子どもの本を、直接手にとってご覧いただくことができます。

開催期間 8月22日（土）～9月27日（日）

休館日 月曜日、国民の祝日・休日（9月21日～23日）、
資料整理休館日（9月16日）

開催時間 9：30～17：00

会場 国際子ども図書館 3階 ホール

お知らせ

■ 「子ども霞が関見学デー」 に参加します



昨年の「レファレンス体験」

「子ども霞が関見学デー」は、子どもたちが広く社会を知る体験活動の機会として、また、国の業務に対する理解を深めてもらうことを目的として、文部科学省を中心に府省庁などが連携して、毎年夏休みに見学会などを実施するものです。

国立国会図書館では、以下のプログラムを実施します。

- 日 時 8月19日(水) (1) 11:00～12:00 (2) 14:00～15:00
8月20日(木) (1) 11:00～12:00 (2) 14:00～15:00
各回20名(引率者を含む)
- 対 象 小中学生および引率者
- プログラムの内容

「日本でいちばん大きな図書館を探検しよう」

- ・国立国会図書館はどんなところかな(当館の役割、利用の仕方等)
- ・地下8階まである書庫に行ってみよう(集密書架、光庭等の見学)
- ・図書館員になってみよう～レファレンス体験(19日のみ)
- ・本の病院を見てみよう(20日のみ)

○お申込方法

7月31日(金)までに往復はがきでお申し込みください。当日参加は受け付けておりませんので、ご注意ください。

引率者は1名まで、また、申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

往復はがきに、ご本人(子ども)氏名・年齢、引率者氏名、郵便番号、住所、電話番号、希望する回をご記入ください。返信用のはがきには、返信先(お申込み責任者)の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

○お申込み・お問い合わせ先

〒100-8924 国立国会図書館 総務部総務課広報係

電話 03(3506)5103(直通)

お知らせ

■ 関西館小展示第2回 「日食を追うひとびと ー 7月22日皆既日食に ちなんで」

今年7月22日に日食が起こります。日本全国で部分日食が観測できるほか、皆既日食帯といわれる一部の地域内では皆既日食が観測できます。日本国土で皆既日食が観測できるのは46年ぶりのことです。

そこで、第2回目の小展示では日食をテーマに取り上げます。日食は古くから世界各国の人々の関心を集めてきました。様々な時代の暦や文献に残された記録からは、日食に対する当時の人々の関心の高さや時代背景がうかがえます。

この展示では、古代から現代にいたるまでの、日本をはじめ世界各地で起こった日食を巡る様々な文献を、科学技術資料やアジア言語資料を含む関西館の資料の中からご紹介します。

入場無料で、資料の大半が実際に手にとれるようになっています。

7月の日食を迎えるにあたって、日食が生んだ様々なドラマの一端に触れてみてはいかがでしょうか。

- 開催期間 7月16日(木)～8月18日(火)(日曜・祝日を除く)
- 開催時間 10:00～18:00
- 場 所 関西館 総合閲覧室
- 入 場 無料



Todd, D. P. The Total Eclipse of last August in Japan. *Nature* vol.36 no.939(1887), pp. 609-612.

<請求記号 Z53-A28 >

明治20(1887)年8月19日、アメリカの天文学者トッド博士による日本での皆既日食観測記事。図は、文部省編輯局長伊沢修二によるスケッチ。このときの日食では、明治政府の主導のもと、研究者以外に一般の人々もコロナのスケッチを行い、多くのスケッチが残された。



お知らせ

■ 国立国会図書館 データベースフォーラム (関西館)

「国立国会図書館データベースフォーラム ― 確かな情報へのナビゲーター ―」は、当館の作成するデータベースやコンテンツの内容、最新情報、知っていると便利な使い方を、デモンストレーションを交えながらご紹介する催しです。

フォーラム当日には、希望者を対象に関西館の館内見学も実施いたします。入場無料です。みなさまのご参加をお待ちしております。

○日 時 9月16日(水) 13:00～17:00

*館内見学は12:20～、17:10～の2回(各30分程度)

申込み多数の場合はご希望にそえないことがあります。

○会 場 関西館 大会議室

○定 員 300名(先着順。定員になり次第、受付を終了いたします)

○お申込方法

当館ホームページ上のデータベースフォーラム参加申込専用ページ
でお申し込みください。7月31日(金)から受付を開始します。

<http://www.ndl.go.jp/jp/event/dbf2009.html>

国立国会図書館ホームページイベント情報

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館総務課

電話 0774(98)1247(直通)

※東京本館では10月29日(木)に開催予定です。詳細は次号でお知らせします。

■ 明治時代の本の 著作権者を 探しています

「近代デジタルライブラリー」では、国立国会図書館が所蔵する明治期および大正期に刊行された図書を、著作権処理を行いインターネット上で提供しています。著作権処理に際しては、著作者の没年、著作権者の連絡先を調査し、これらが不明の著作物について、著作権法第67条に基づく文化庁長官の裁定を受けています。

このたび、連絡先がわからない著作権者について、8月31日(月)まで当館ホームページ上で「著作者情報公開調査」を実施しています。皆様のご協力をお願いいたします。情報提供の方法などについては、以下をご覧ください。

○URL <https://kokaityosa.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ電子図書館―近代デジタルライブラリー



お知らせ

■ 平成 21 年度 「児童文学連続講座— 国際子ども図書館所蔵資料 を使って」

全国の各種図書館等で児童サービスに従事する図書館員の方を対象に、国際子ども図書館が広く収集してきた内外の児童書および関連書を活用した児童文学連続講座を開催します。

○テ — マ 「いつ、何と出会うか—赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」

○総合監修 宮川健郎（武蔵野大学文学部教授、JBBY（社団法人日本国際児童図書評議会）副会長、国立国会図書館客員調査員）

○日 時 11月9日（月）～10日（火）

○会 場 国際子ども図書館 3階ホール

○対 象 現在、図書館や文庫等において児童サービスに従事する方。

○定 員 60名

1機関1名（原則として、同一市町村区内から1名）。

応募多数の場合は調整します。なお、2日間連続して受講できる方を優先します。

○お申込方法

国際子ども図書館ホームページ（<http://www.kodomo.go.jp/>）

—展示会・イベント—イベントのお知らせをご覧ください。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課協力係

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

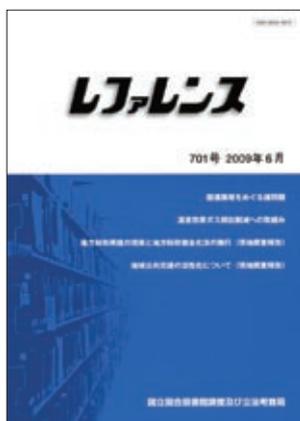
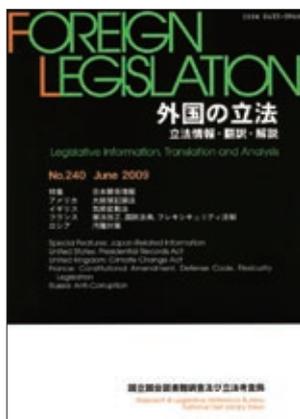
電話 03（3827）2053（代表） FAX 03（3827）2043

電子メール kenshu@kodomo.go.jp

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



外国の立法 立法情報 翻訳 解説 第240号 A4 237頁

季刊 1,890円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-684-2)

〈特集 日本関係情報〉

- ・米国における日本関係情報
- ・韓国国会の対日動向
- ・中国の日本関係情報—情報源及びネット世論の動き
- ・2008年度の日本関係記事まとめ

〈主要立法（翻訳・解説）〉

- ・大統領記録の公開—大統領記録法とオバマ政権の大統領記録に関する大統領令
- ・英国 2008年気候変動法—低炭素経済を目指す土台
- ・2008年7月23日のフランス共和国憲法改正
- ・フランスの国防法典
- ・フランスにおけるフレキシキュリティ法制—労働市場の柔軟性と安定性を確保するヨーロッパの取組み
- ・メドベージェフ政権の汚職対策

レファレンス 701号 A4 70頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・国債累増をめぐる諸問題
- ・温室効果ガス排出削減への取組み
- ・地方財政再建の現実と地方財政健全化法の施行
- ・地域公共交通の活性化について

NDL CD-ROM Line 点字図書・録音図書全国総合目録

2009年1号（1980年以前～2009年3月収録） 年2回更新

年間契約価格 42,000円、初年度のみ 63,000円（検索ソフト込み）

発売 日本図書館協会

参加館は 242館（当館、86点字図書館、155公共図書館等）。

収録レコード 421,173件。

お知らせ



カレントアウェアネス 300号 32頁 季刊 420円 発売 日本図書館協会
創刊300号・30周年記念特別号

- ・「図書館・図書館情報学の情報誌」としての期待
- ・『カレントアウェアネス』30年の歩み

小特集 カレントアウェアネス創刊300号・30周年に寄せて

- ・『カレントアウェアネス』の編集に係わって
- ・『カレントアウェアネス』—「変わったこと」と「変わらないこと」
- ・『カレントアウェアネス』300号への道程

- ・2009年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議（A-LIEP 2009）開催報告
- ・経済低迷期と向かい合う米国公共図書館

〈動向レビュー〉

- ・デジタルリポジトリにおけるメタデータ交換の動向
- ・『カレントアウェアネス』索引（No.272～300）

入手のお問い合わせ

（社）日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03（3523）0812

CONTENTS

- 02 Book of the month - from NDL collections
Choga rinpun tensha hyohon
brilliant wings of butterflies of 100 years ago
- 04 World Digital Library - viewing cultural treasures
- 10 Illustrated guide to the work of NDL
Behind the library counter
how requested materials are delivered from the stacks
- 13 Exploring modern Japanese political documents
acquisition of modern Japanese political history materials
documents relating to Yoshio Matsushita as an example
- 20 Stacks of the NDL
(2) Kansai-kan of the NDL and International Library of Children's Literature
- 22 Learning in NDL (3) How to research medical and technological information materials
- 12 < Tidbits of information on NDL >
"Jakushiku-wa" instead of "moshiku-wa" ?
- 18 < Books not commercially available >
○ *Umibe no koya: Niigata no funagoya, hamagoya, ban'ya*
○ *Tabi - Edo no tabi kara tetsudo ryoko e: kikaku tenji*
- 27 < NDL NEWS >
○ Donation of brush paintings (*sumi-e*) by Mr. Sakai Miyamoto
- 28 < Announcements >
○ Renewal of the PORTA
○ List of Japanese online journals to which ISSNs were assigned now available on the NDL website
- Exhibition at the International Library of Children's Literature: Children's books link the World - Hans Christian Andersen Award 2008 & IBBY Honour List 2008
○ NDL to participate in the Children's Day for Visiting Kasumigaseki
○ Small exhibition in the Kansai-kan (2) Eclipse chasers from past to present - in connection with the total solar eclipse on July 22
○ NDL Database Forum in the Kansai-kan of the NDL
○ Searching for copyright holders of books published in the Meiji Era
○ ILCL Lecture Series on Children's Literature FY2009 - utilizing the ILCL collections
○ Book notice - publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 21 年 7 月号 (No.580)

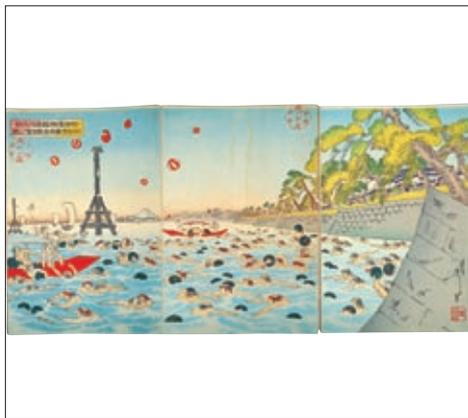
発行所 国立国会図書館
編集責任者 網野光明
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成 21 年 7 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03 (3523) 0812 (販売)
FAX 03 (3523) 0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社エポ

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜き抜して転載される場合には、事前に当館総務部総務課に連絡してください。本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) - 「刊行物」 - 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



「於御浜御殿徳川大樹御船手西瓜合戦上覧之図」から 部分
月岡芳年画〔明治22(1889)〕
錦絵(35×24cm)3枚続き
〔「あづまにしきゑ」所収<請求記号 本別15-22>〕

国立国会図書館月報

平成21年7月20日発行 (毎月1回20日発行)
(7月号通巻580号)

発売：社団法人日本図書館協会 定価525円(本体500円)